

第2回一関市下水道事業等経営審議会会議録

1 会議名 第2回一関市下水道事業等経営審議会

2 開催日時 平成28年3月11日(金) 14時00分～16時00分

3 開催場所 一関保健センター2階 栄養指導室

4 出席者

(1) 一関市下水道事業等経営審議会委員 7人

菅原繁雄会長、佐々木親弘委員、加藤三夫委員、皆川長子委員、
鈴木孝男委員、千葉鐵男委員、金野ます子委員

(欠席委員 3人 永澤由利副会長、山田共子委員、千葉美江子委員)

(2) 市出席者 15人

菅野佳弘上下水道部長、金田賢上下水道部次長、佐藤隆博下水道課長、
玉澤俊一花泉支所建設水道課長、千葉幸司大東支所建設水道課長、
千葉彰千厩支所建設水道課長、榊原勇東山支所建設水道課長、
北條敏方室根支所次長兼建設水道課長、齋藤祐二川崎支所建設水道課長、
小野寺教勉藤沢支所建設水道課長、佐々木敏昭下水道課長補佐、
鈴木正志下水道課長補佐、松本高行下水道課普及係長
小野寺裕太郎下水道課主事

5 会長挨拶

今回は名称が変わり2回目の開催になるが、当審議会は、市が行う下水道事業等の適正かつ円滑な経営を図るために、市からの諮問を受けて、下水道事業等の整備計画、経営計画、使用料改定等経営に関する事項を調査、審議することになる。

前回は、市長から一関市汚水処理計画の策定について諮問を受け、審議を開始し、基本的な考え方や市の将来像、重点項目について意見をいただいた。本日は、前回の意見等も踏まえた汚水処理計画の素案について事務局よりこれから説明をいただく。皆さんからの忌憚のないご意見などをよろしくお願ひしたい。

6 審 議 (議長：会長)

(1) 一関市汚水処理計画について

事務局から、事前送付資料の説明を行い、質疑・意見交換を行った。

◎ 主な質疑応答・意見交換

○ 審議会委員質疑

河川の水質のBOD (生物化学的酸素要求量) の数値が平成22～23年度ごろは下が

っているのに平成24～25年度は上がっている。その原因は何か。

【市回答】

推測になるが、雨量が少ない渇水期だと排水の濃度が高くなり、BODの数値も高くなってしまう。25年度は全河川の値が高くなっているため、雨量が少なかったのではないかと思われる。

○ 審議会委員質疑

BODの数値が悪くなった原因は調べていないのか。

【市回答】

BODの数値が高くなった原因は自然現象ではないかと思う。大事なところなので、次回までに雨量のデータを揃えておく。

○ 審議会委員質疑

浄化槽の設置基数が減少傾向にあるが、その原因は何か。

【市回答】

市設置型の導入や個人設置型の補助率嵩上げといった新制度、震災による需要により設置基数が多くなった。新制度の導入の時期に設置基数が多くなり、その後徐々に減少するといった傾向がある。

設置されている基数が減るわけではなく、新たに設置する基数が減少しているということである。

○ 審議会委員質疑

下水道管が閉塞を起こすというのは、こういった要因があるのか。

【市回答】

災害が起きたことにより、微妙に蛇行していたり上下にうねったりして滞水している管がまだある。その滞留しているところに泥や異物がたまって汚水が流れなくなる。災害当初に確認できなかった箇所は、詰ったところから適時直していくという対応をしている。

○ 審議会委員質疑

農業集落排水事業について、黒沢地区は公共下水道に接続することが決定しているが、西黒沢地区は今後接続する見通しはあるのか。

【市回答】

西黒沢地区も接続できるように考えていたが、まだ公共下水道の路線が整備されていないので見通しがたっていない。公共下水道から2km程度離れている花泉地域の原前地区農業集落排水施設については、最適整備構想で検討していく予定となっている。他の地域も極力公共下水道に接続していければと考えている。

また、公共下水道へ接続できないところは、処理場の更新時に規模を縮小するこ

とも考えている。

○ 審議会委員質疑・意見

公共下水道の供用地域になった際に受益者分担金を納めたが、公共ますにつないでいない家庭が半分以上あるのではないかと思う。浄化槽の個人設置型の補助金があるのならば、こちらのほうが安く済むのではないかと感じる。その場合は、流しやトイレを全部直さなくてもできるのか。浄化槽をつけるとなったら、公共ますを作るときに収めたお金は戻ってこないのか。

【市回答】

公共下水道、農業集落排水、浄化槽の地域はそれぞれ線引きをしていて、下水道の地域では浄化槽の補助を受けられないことになっている。

以前収めていただいた分担金は、管渠や公共ますなどの市管理部分の一部負担なので、お返しすることはできない。

排水設備は個人の施設になり、水洗トイレの便器代や工事費などにお金がかかるが、融資あっせんや利子補給補助の制度がある。

【審議会委員発言】

公共下水道に接続する際は、排水設備を全部直す必要はなく、トイレだけ水洗に直せばよい。台所の流しや風呂場等からの排水管は直さずにますにつなげればよいので、台所や風呂場を直す必要はない。

○ 審議会委員質疑・意見

旧東山町には下水道工事の際に100万円までを無利子で貸す制度があった。そのような思い切った政策を考えてほしい。

【市回答】

排水設備融資あっせん及び利子補給補助金という制度があり、無利子と同様のものである。

○ 審議会委員質疑

一関汚水処理計画（素案）P10の「汚水処理施設の災害への備えについて」で緊急対応体制の整備が必要となっているが、具体的な対応について内容は考えているのか。

【市回答】

油分が固まることが閉塞の一因になるので、そのようなものを流さないということの啓発や、除外施設の設置を義務付けるという方法もある。計画の中で考えていきたい。

停電によってマンホールポンプのモーターが止まったときは、維持管理業者に汲取りを依頼して順に回って対応してもらっていた。緊急対応時用資材のストック、清掃業者等関係機関との連携、隣接市町村からの応援、県との連携が必要だろう。

○ 審議会委員質疑・意見

一関汚水処理計画（素案）P8に関連して、排水設備の工事費用がかさむことが普及率の上がない主な理由であると考えられる。個別に無料で見積りを作ったり、費用について補助金の資料を作ったりしてもよいのではないか。

【市回答】

排水設備工事に係る費用の平均値などの資料を取りまとめている。

○ 審議会委員意見

計画の大筋はそのとおりだと思うが、現実問題として普及率を上げないと計画通りには進まない。環境をきれいに保たなければならないということを一般市民に理解してもらわないといけないし、広報などの啓発がないと理解を得られないと思う。工事費や維持管理費がかかるため、交付金や補助金が見込めないとすると使用料で賄うしかない。まず啓発活動をして、費用を賄えるように使用料の値上げもやむを得ないと思う。

○ 審議会委員意見

市民にとっては、情報不足、理解不足ではないか。現代らしく、口語体でチラシのような形で情報提供をしてほしい。マンガだとなおよい。

【市回答】

基本的な情報が不足しているので、分かり易い資料を検討していきたい。

○ 審議会委員意見

川崎町では、女性部が先にたってEM（通称：EM菌。乳酸菌や酵母など人にも環境にもやさしい微生物たちの共生体）を利用する活動をしている。どのくらいきれいになっているかは分からないが、1年で各家庭ペットボトル50本くらい米のとぎ汁EM発酵液を排水管に流している。それが環境をきれいにしているのではと考えている。

【市回答】

すばらしい活動だと思う。自分たちの行動から意識啓発をしていくことで、各家庭で水洗化の必要性の順番が変わっていき、普及率も上がってくると思う。受け身ではない能動的な活動は、PRの仕方として、良い意見をいただいた。

(2) その他 なし

7 上下水道部長挨拶

5月の審議会までに整理する事項については、次期部長に引き継ぐので、よろしく願います。

今年度退職者（菅野佳弘上下水道部長、榊原勇東山支所建設水道課長、北條敏方室根支所次長兼建設水道課長、小野寺教勉藤沢市所建設水道課長）によるあいさつを行った。

8 公開、非公開の別 公開

9 傍聴者の数 0人

10 担当課 上下水道部下水道課